

縄文時代セミナー 縄文集落と葬制の画期

2021年11月13日・14日

福島県文化財センター白河館

【11月13日（土）】

13：00～13：10 開会 菊池 徹夫

13：10～14：20 法正尻遺跡と福島県の様相 松本 茂 本間 宏

14：30～15：50 北東北における環状列石の成立 小林 克

15：50～16：00 コメント 菅谷 通保

【11月14日（日）】

10：00～11：20 関東の縄文中・後期集落と墓制 菅谷 通保

11：30～12：00 補足説明・論点整理

13：00～14：50 討論 縄文中・後期の集落と葬墓制

14：50～15：00 閉会

講師プロフィール

松本 茂（まつもと しげる）

1953年、東京都大田区生まれ。日本大学文理学部史学科卒。福島県文化センター事業第二部遺跡調査課、福島県教育庁文化課(併任)、福島県文化財センター白河館研修課等に勤務し、2021年3月に公益財団法人福島県文化振興財団遺跡調査部を退職。専門は日本考古学。主な著作は、『東北横断自動車道遺跡調査報告 11 法正尻遺跡』福島県教育委員会他 1991年、「五領ヶ台式から阿玉台式土器へ」『論集しのぶ考古』1996年、「木村館の破却」『城破りの考古学』2001年 吉川弘文館、「粘板岩を割る」『怒涛の考古学』2005年、「貯蔵穴から集落をみると—法正尻遺跡の調査から—」『福島県文化財センター白河館研究紀要 2018』2019年 など。

小林 克（こばやし まさる）

1956年、秋田県神岡町生まれ。早稲田大学第一文学部日本史学科卒。秋田県教育庁、文化庁文化財保護部記念物課主任調査官等を経て、2016年3月に秋田県埋蔵文化財センター所長を定年退職。専門は日本考古学。主な著作は、「農耕社会に南下した狩猟採集民」『考古学ジャーナル』341号 1991年、「「東北続縄紋式」学説史的覚え書き」『北奥古代文化』22号 1992年、「クマと土偶とシャマンと」『平成 19 年度～平成 23 年度文部科学省私立大学学術高度化推進事業「オープン・リサーチ・センター整備事業 東北地方における環境・生業・技術に関する歴史動態的総合研究 研究成果報告書 I』東北芸術工科大学東北文化研究センター2012年、「民俗学から読み解く縄文人の心性」『考古学ジャーナル』728号 ニューサイエンス社 2019年、「東北北部環状列石研究の現段階」『物質文化』99号 2019年 など。

菅谷 通保（すがや みちやす）

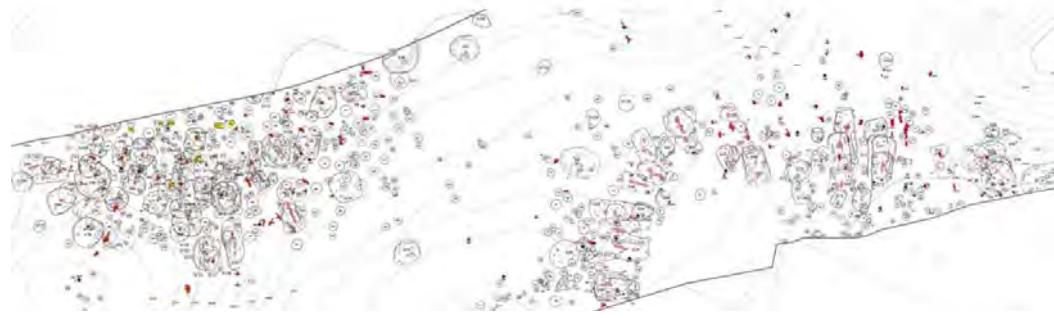
1962年、千葉県芝山町生まれ。明治大学文学部史学地理学科卒。東京大学文学部教務補佐員、茂原市立美術館・郷土資料館学芸員等を経て、現在千葉市埋蔵文化財調査センター埋蔵文化財主任研究員。専門は日本考古学。主な著作は、「竪穴住居の型式学的研究—縄文時代後・晩期の諸問題—」『奈和』23号 1985年、「縄文時代特殊住居論批判」『東京大学考古学研究室研究紀要』7号 1987年、「竪穴住居から見た縄文時代後・晩期」『帝京大学山梨文化財研究所紀要』6号 1995年、「多遺体埋葬」『縄文時代の考古学』9巻 2007年 同成社、「曾谷式・後期安行式土器」『総覧 縄文土器』アム・プロモーション 2008年 など。

本間 宏（ほんま ひろし）

1962年、秋田県秋田市生まれ。明治大学文学部史学地理学科卒。福島県文化財センター白河館副館長兼学芸課長。専門は考古学・地域史。主な著作は、「土器型式設定上の基本原則」『福島考古』32号 1991年、「排出土砂痕跡に基づく集落分析の視点」『福島考古』48号 2007年、「南境・綱取式土器」『総覧縄文土器』アム・プロモーション 2008年、「神指城跡の再検討」『福島県歴史資料館研究紀要』31号 2009年、「計画的避難区域における文化遺産の保護」『ふくしま再生と歴史・文化遺産』山川出版社 2013年 など。

法正尻遺跡と福島県の様相

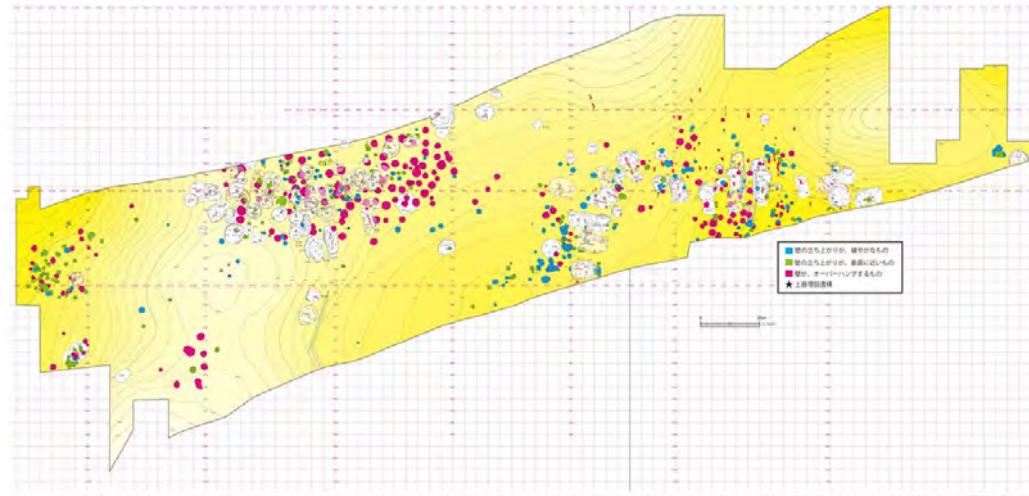
松本 茂 本間 宏



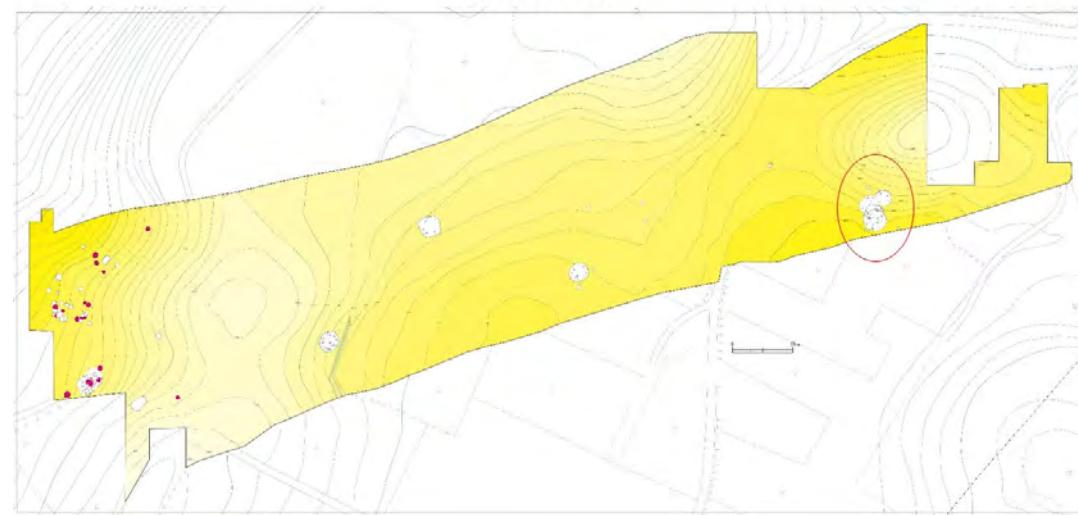
調査区全景



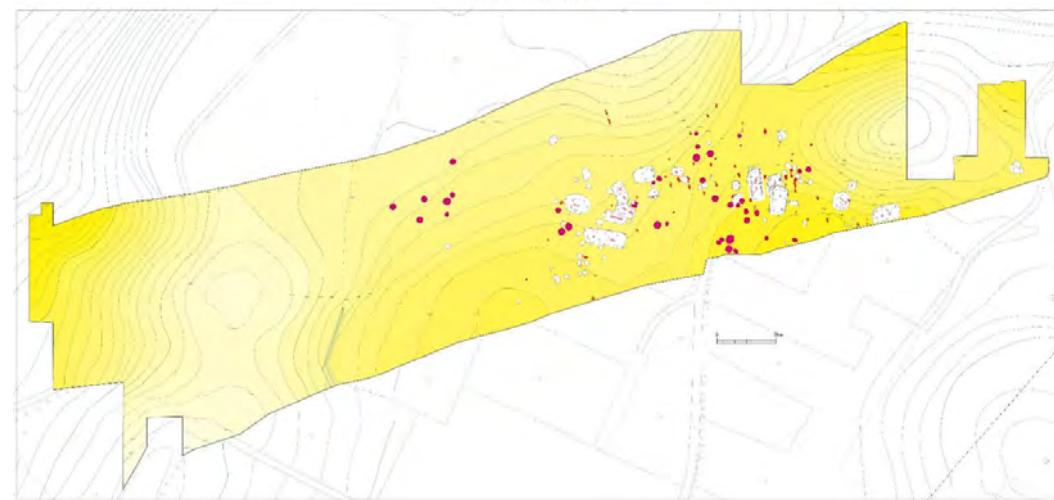
法正尻遺跡で確認された遺構（※縄文時代前期と平安時代のものを除く）



大木7a式期



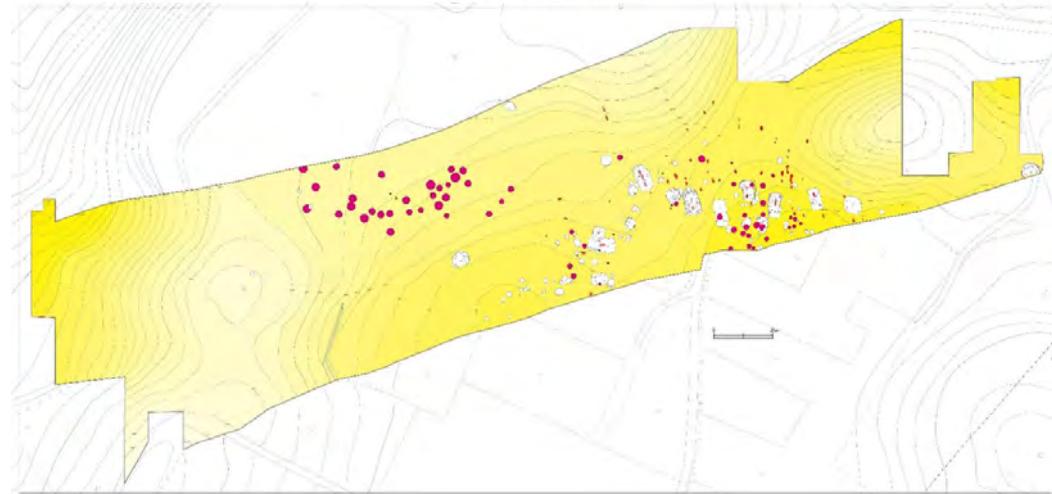
大木7b式期



大木7b式期 並列状集落



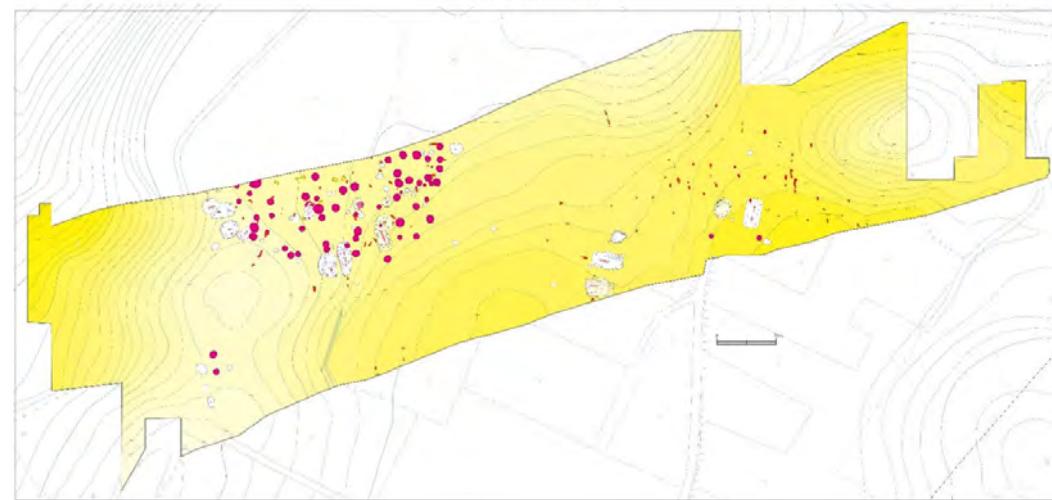
大木8a式期



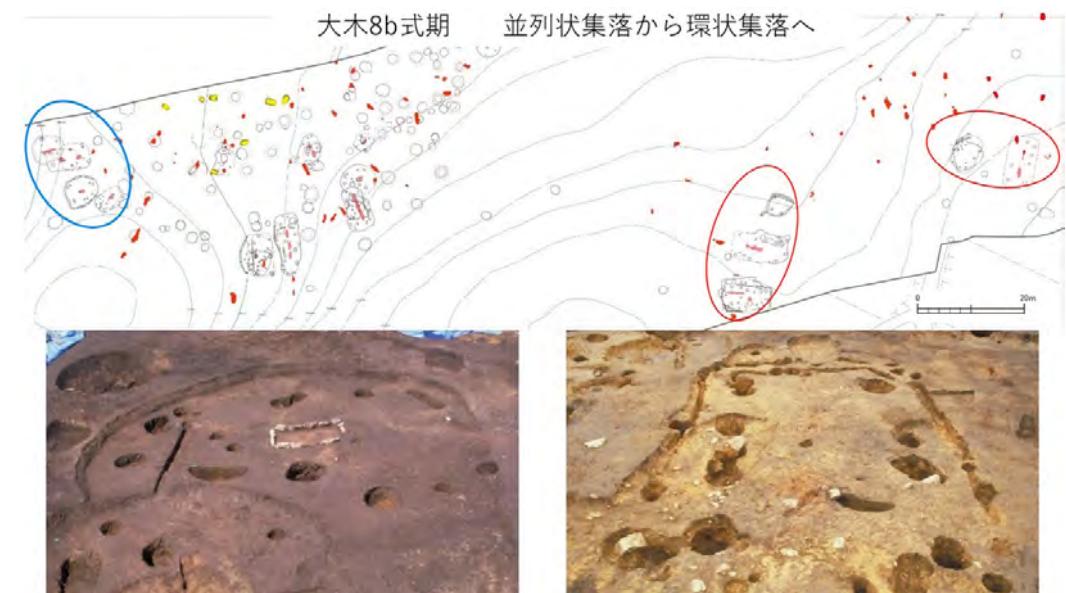
大木8a式期 並列状集落

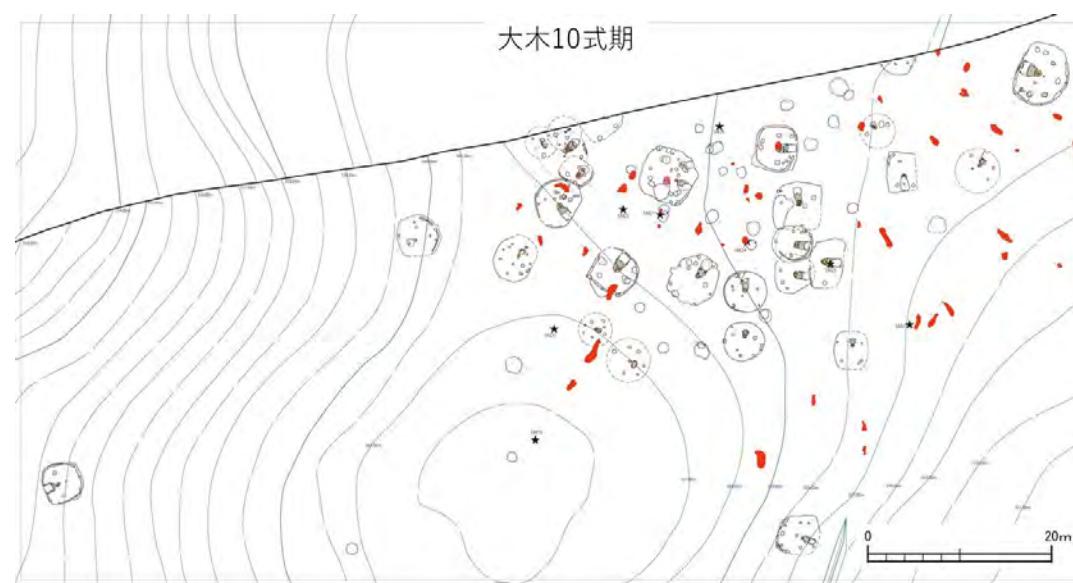
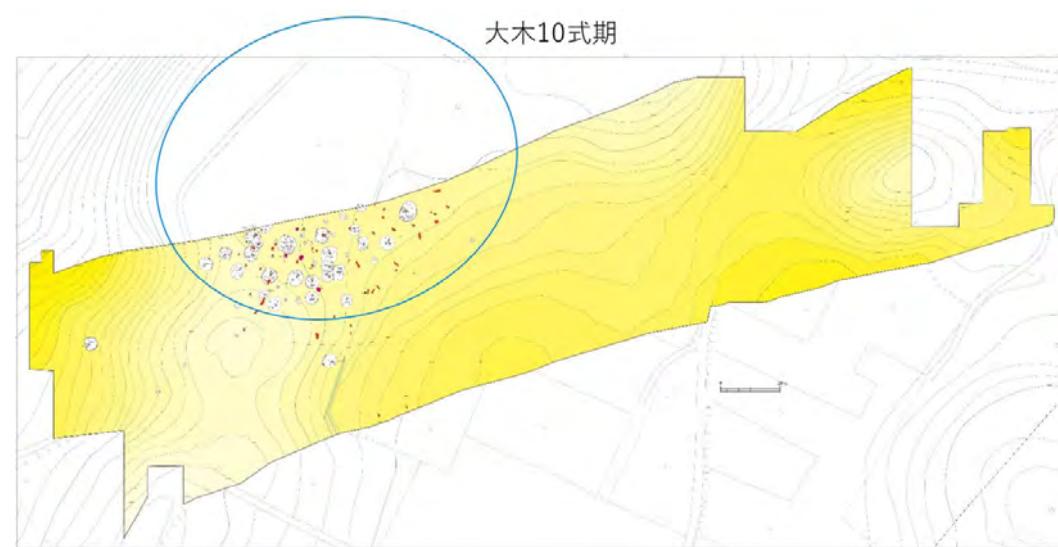
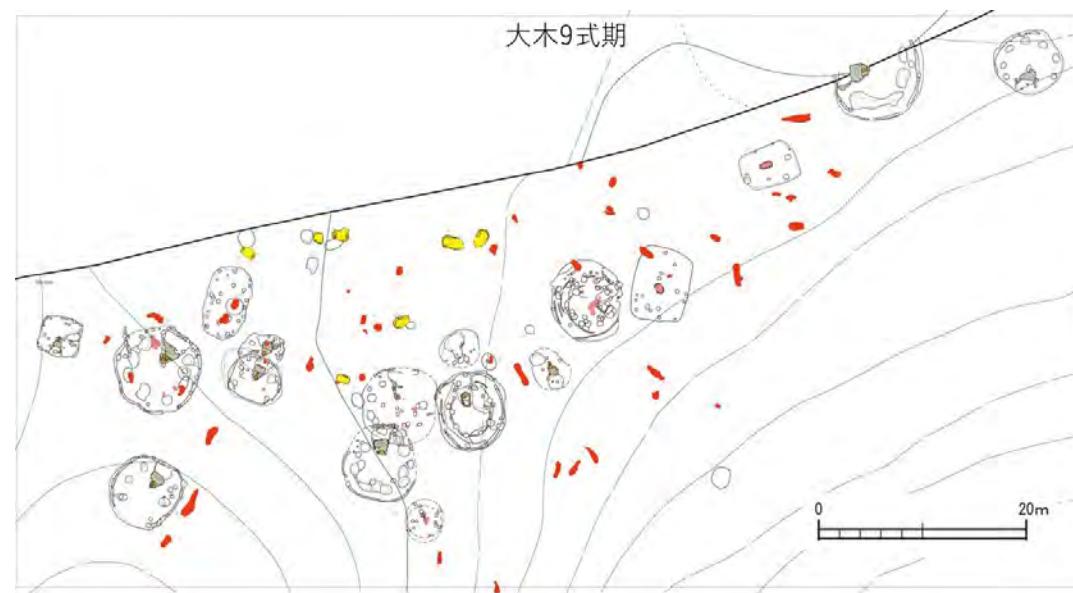
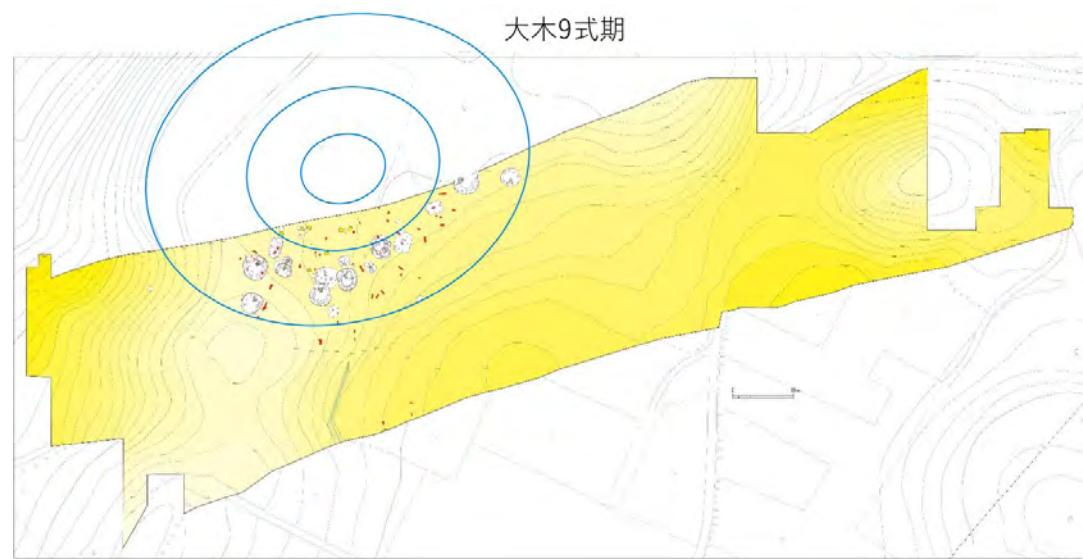


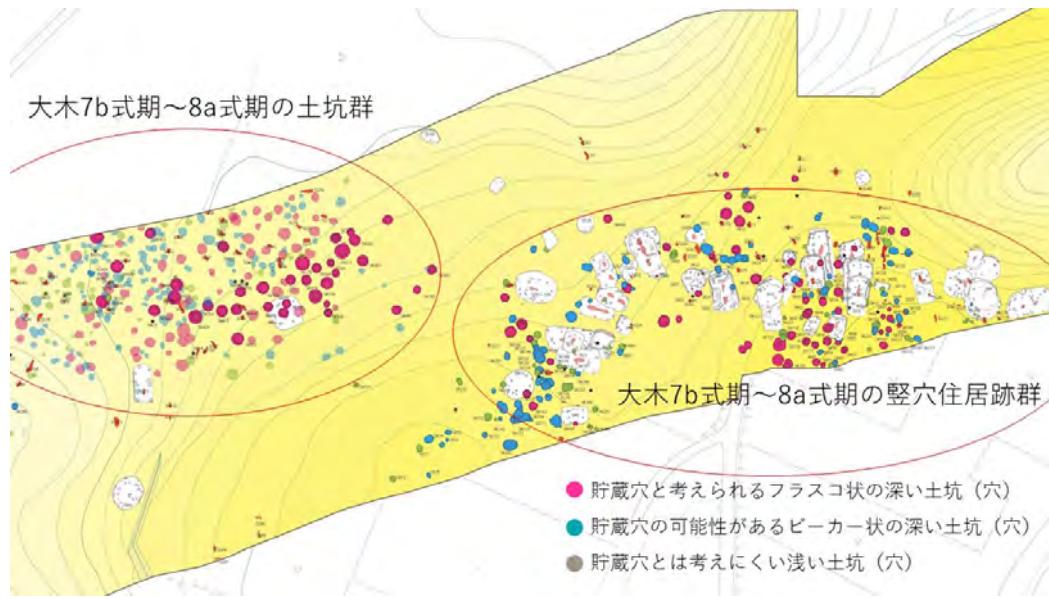
大木8b式期



大木8b式期 並列状集落から環状集落へ







石川町 七郎内C遺跡

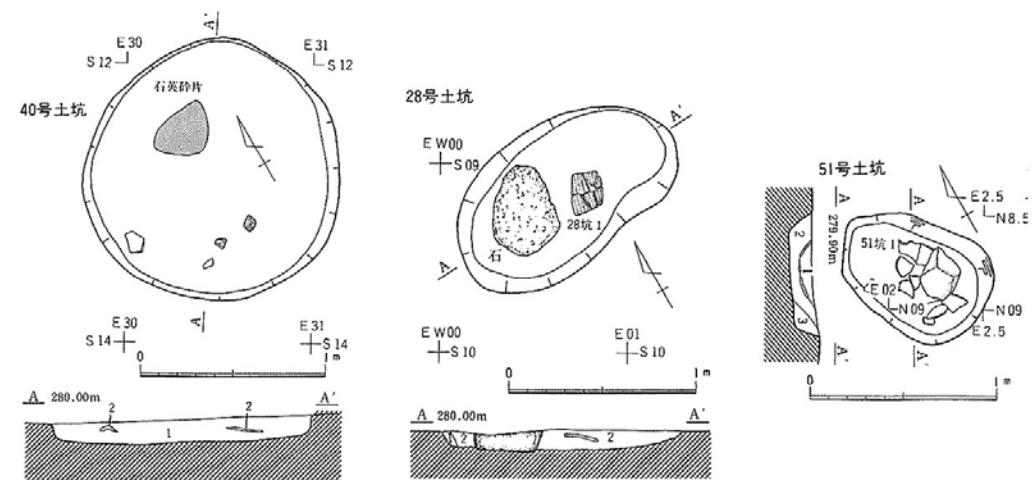


山本友紀 2021
縄文時代講座2講演会資料2
「福島県出土の硬玉製大珠」
配布資料（全国遺跡報告総覧
91757）から転載

長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	出土遺構	時期	形状	所蔵(所在)
64	26	30	103.0	55号土坑	(中期 中葉)	不整形	福島県教育委員会 (まほろん)

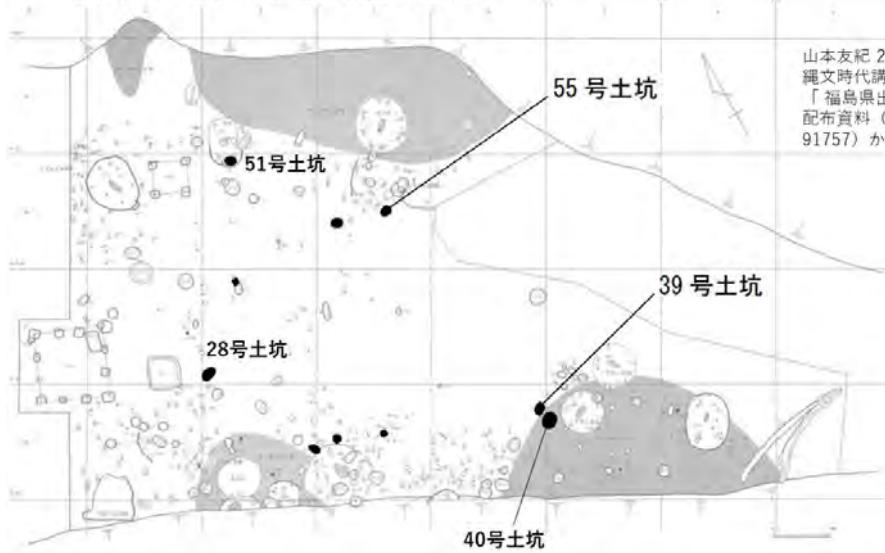


山本友紀 2021
縄文時代講座2講演会資料2
「福島県出土の硬玉製大珠」
配布資料（全国遺跡報告総覧
91757）から転載



福島県教育委員会ほか1982「七郎内遺跡」『母畠地区遺跡発掘調査報告X』より

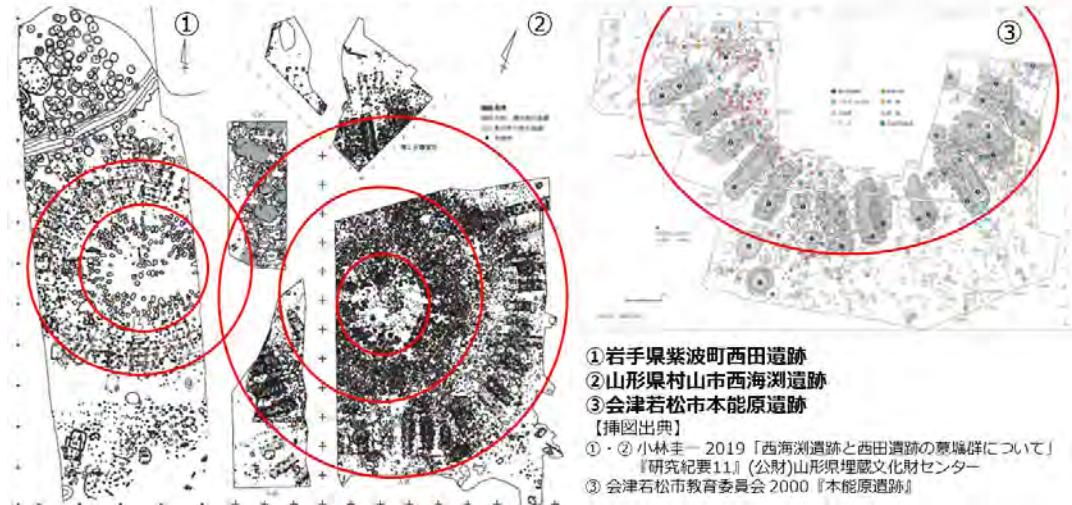
石川町七郎内C遺跡の遺構配置



山本友紀 2021
縄文時代講座 2 講演会資料 2
「福島県出土の硬玉製大珠
配布資料（全国遺跡報告総覽
91757）から転載・一部加筆」

集落構成の特質

—西田・西海渕・本能原・法正尻・五丁歩・清水上、そして妙音寺・堂後—



- ①岩手県紫波町西田遺跡
- ②山形県村山市西海渕遺跡
- ③会津若松市本能原遺跡

【挿図出典】
①・② 小林圭一 2019「西海渕遺跡と西田遺跡の墓壙群について」
『研究紀要11』(公財)山形県埋蔵文化財センター
③ 会津若松市教育委員会 2000『本能原遺跡』



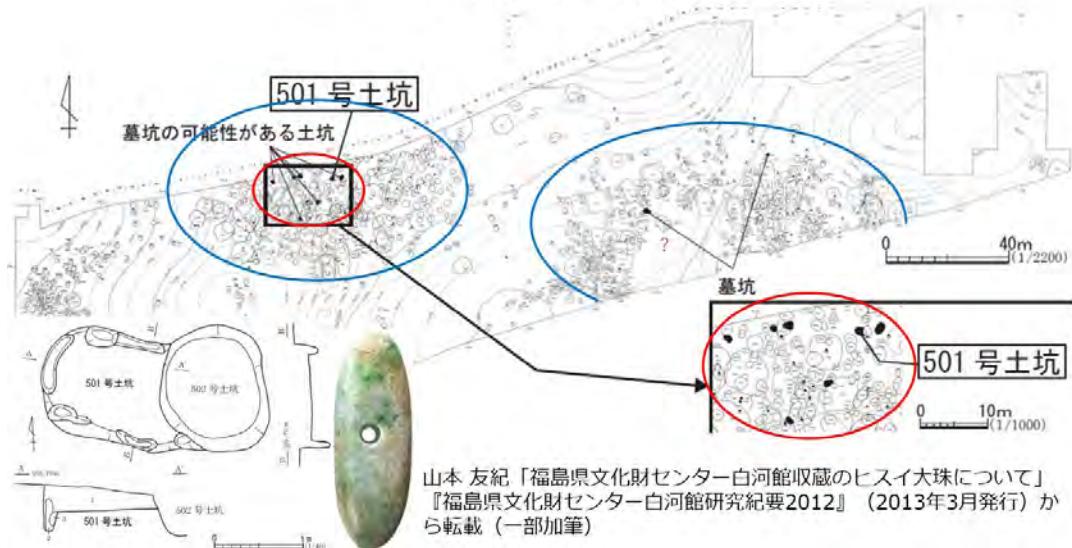
新潟県南魚沼市五丁歩遺跡

【挿図出典】新潟県教育委員会 1992『関越自動車道関係発掘調査報告書五丁歩遺跡 十二木遺跡』

新潟県魚沼市清水上遺跡

【挿図出典】新潟県教育委員会 1996『関越自動車道堀之内インターチェンジ間連发掘調査報告書 清水上遺跡Ⅱ』

墓坑の分布域とその特徴



山本友紀「福島県文化財センター白河館収蔵のヒスイ大珠について」
『福島県文化財センター白河館研究紀要2012』（2013年3月発行）から転載（一部加筆）

福島県の主な複式炉 大木9式期



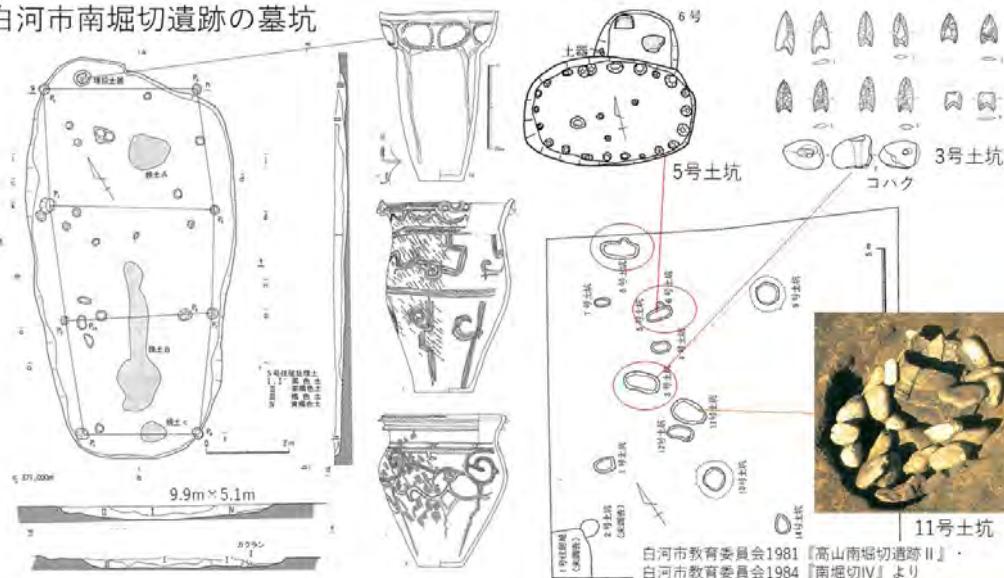
各地の主な複式炉 大木9式期



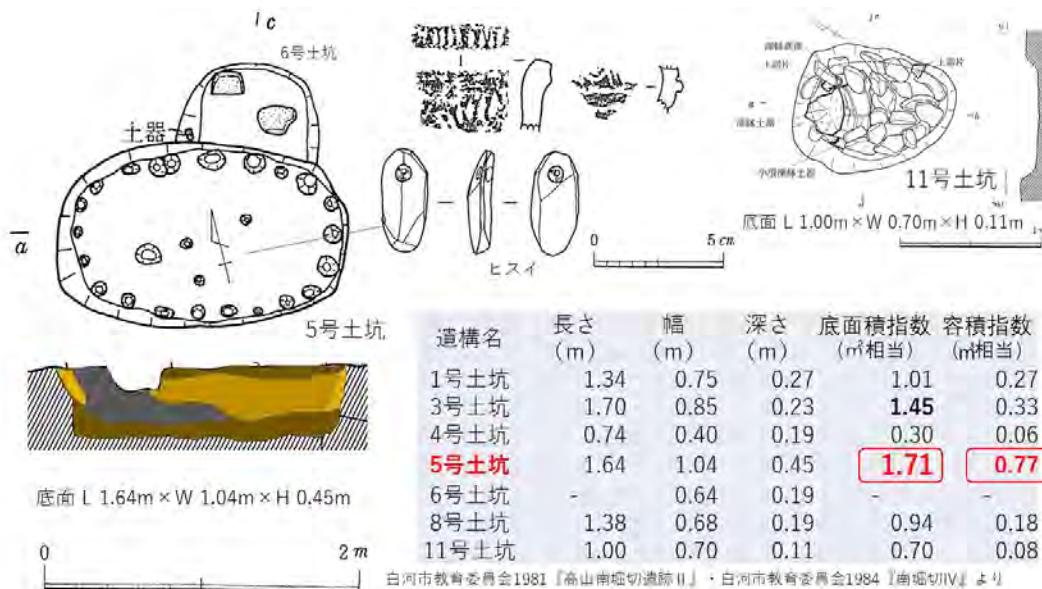
11・12は北朝系、10は北朝系、16は新規系、33は最古系。
1・2は三春町鍋田跡、3・飯附村上ノ谷窯、4～7・17・19・飯附町船山窯、5～10・13・15・本船町船山土屋窯、9～11・郡山市化内窯、14～19・二本松小里施上窯、16・磐梯町早苗窯、20・磐梯町西ノ浦日置窯、21・東松島町鶴久保窯、22～27・七ヶ宿大堂川窯、38・東松島町早苗日置窯、39・太田村土屋窯、41・盛岡市湯舟窯、42～47・49～52・54・55・56・石巻市葛葉窯、48・磐梯町吉子ノ瀬狂狹窯、49・磐梯西田門前貝貝窯、53・八幡平市長者原窯、56・鹿沼市人祖窯、57・一関市吉良窯、58・59・一戸町御所窯。

森 幸彦 2008「大木9・10式土器」『埴輪、縄文土器』アム・ブロモーションより【一部改変】

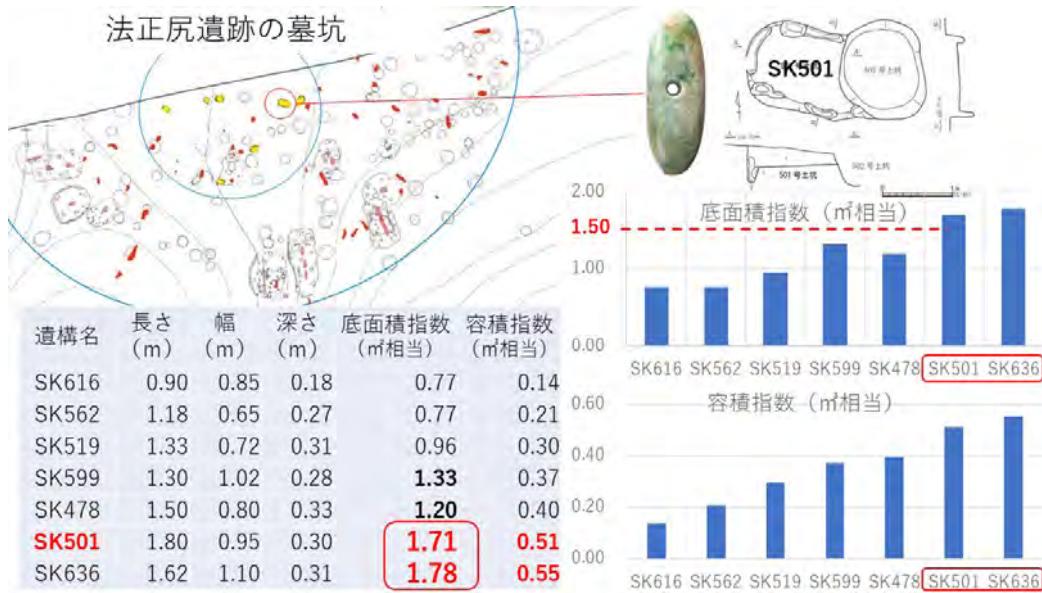
白河市南堀切遺跡の墓坑



白河市教育委員会1981「高山南堀切遺跡II」・
白河市教育委員会1984「南堀切IV」より



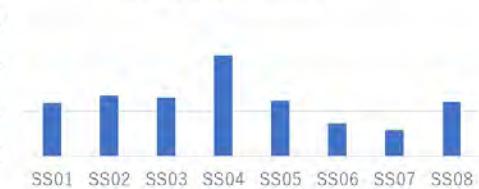
法正尻遺跡の墓坑



越田和遺跡の配石下土坑



底面積指数 (m²相当)



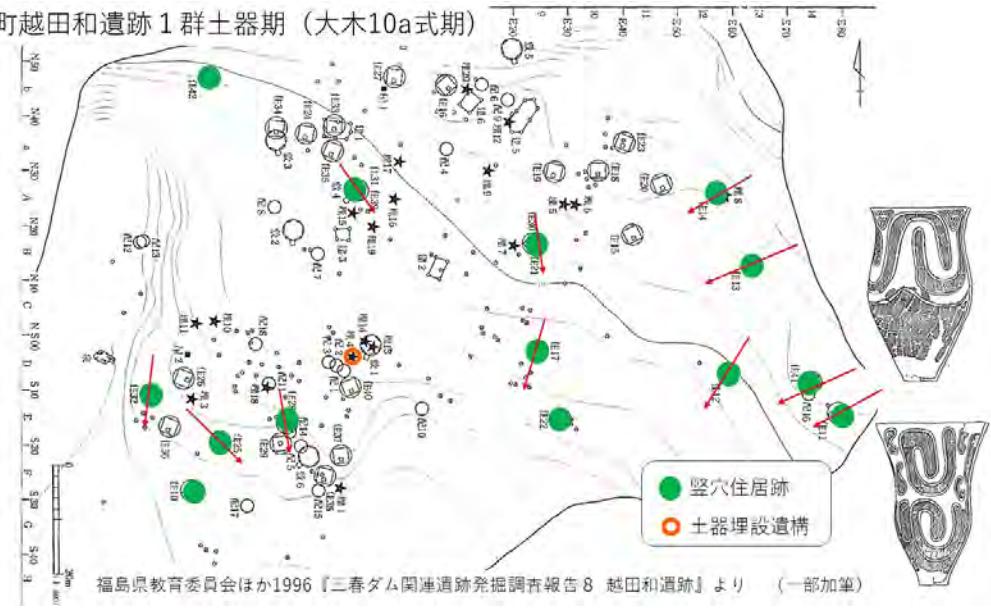
容積指数 (m³相当)

遺構名	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	底面積指数 (m ² 相当)	容積指数 (m ³ 相当)
SS01	1.22	0.96	0.74	1.17	0.87
SS02	1.52	0.88	0.67	1.34	0.90
SS03	1.36	0.96	0.64	1.31	0.84
SS04	1.88	1.18	0.45	2.22	1.00
SS05	1.38	0.89	0.58	1.23	0.71
SS06	1.00	0.72	0.60	0.72	0.43
SS07	0.78	0.75	0.55	0.59	0.32
SS08	1.26	0.94	0.43	1.18	0.51

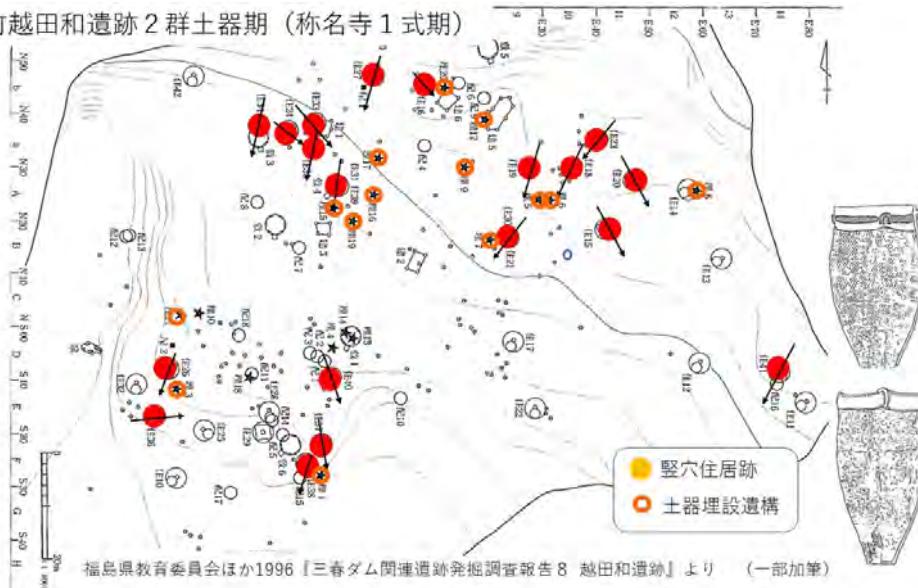
三春町越田和遺跡の場合



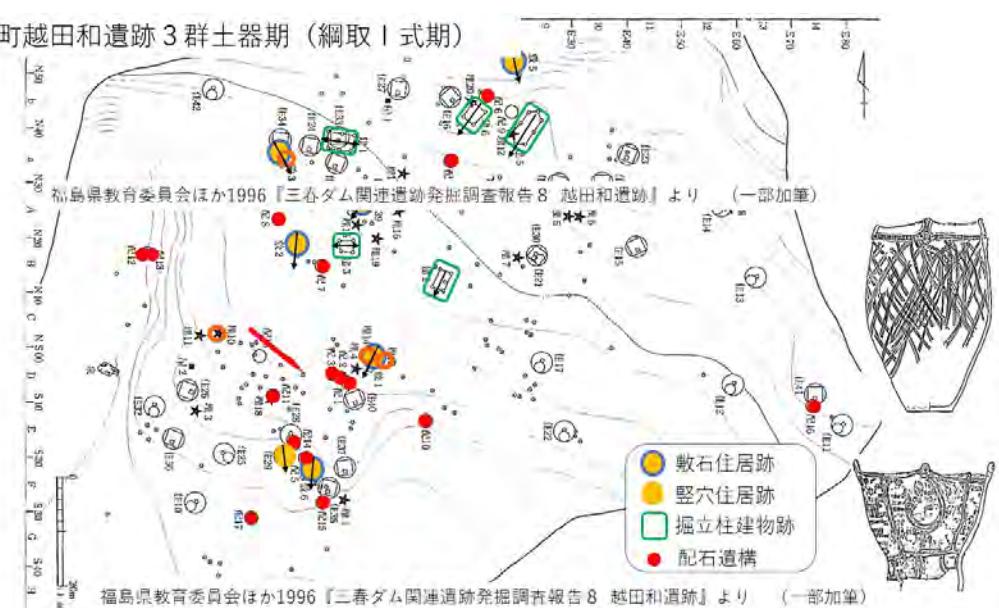
三春町越田和遺跡 1群土器期 (大木10a式期)



三春町越田和遺跡 2群土器期（称名寺1式期）

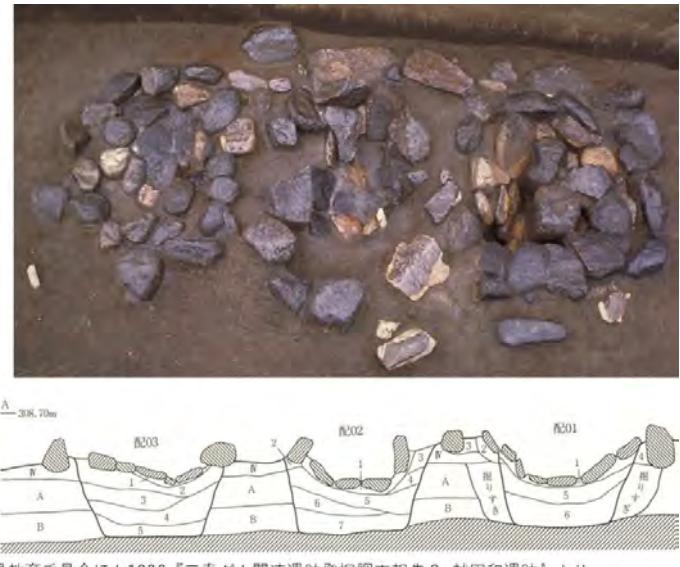
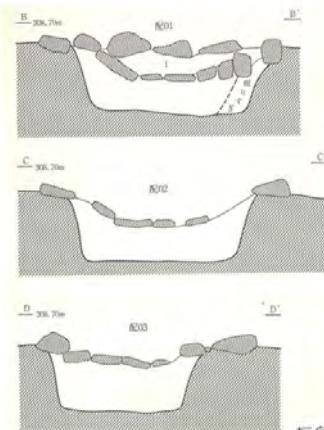


三春町越田和遺跡 3群土器期（綱取1式期）





越田和3群土器期（綱取I式期）の配石遺構



福島県教育委員会ほか1996『三春ダム関連遺跡発掘調査報告8 越田和遺跡』より



【参考】宮城県仙台市下ノ内浦遺跡の事例（綱取II式古期）

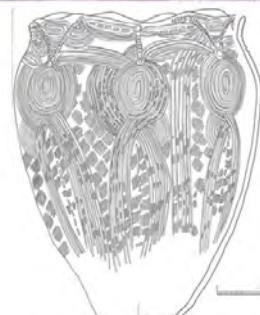


仙台市教育委員会1985『仙台市高速鉄道関係遺跡調査概報IV』より

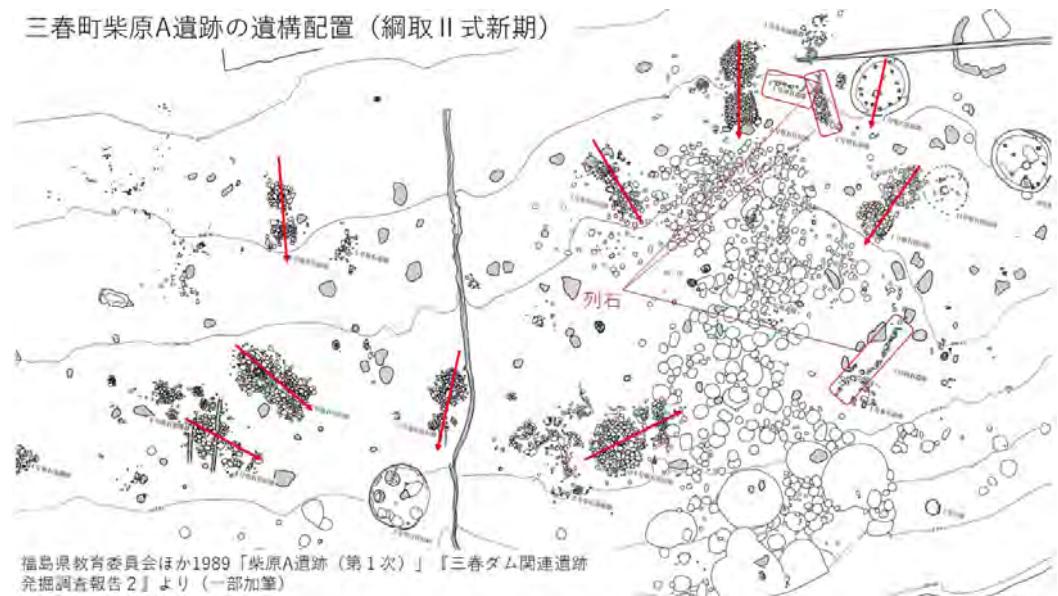
三春町柴原A遺跡の場合（綱取II式新期）



福島県教育委員会ほか1989「柴原A遺跡（第1次）」
『三春ダム関連遺跡発掘調査報告2』より



三春町柴原A遺跡の遺構配置（綱取II式新期）



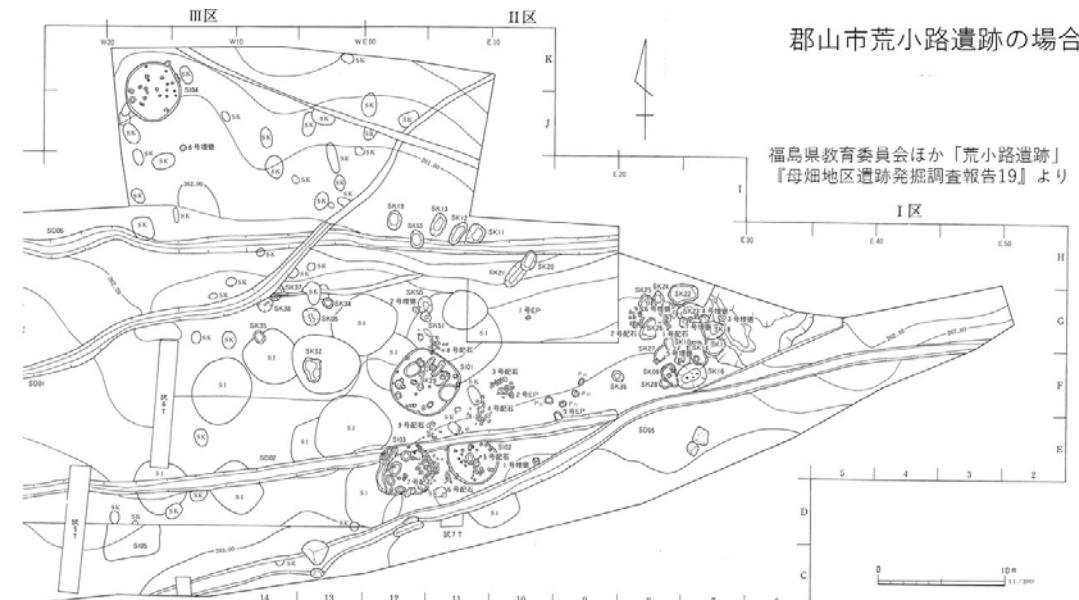
福島県教育委員会ほか1989「柴原A遺跡（第1次）」「三春ダム関連遺跡発掘調査報告2」より（一部加筆）



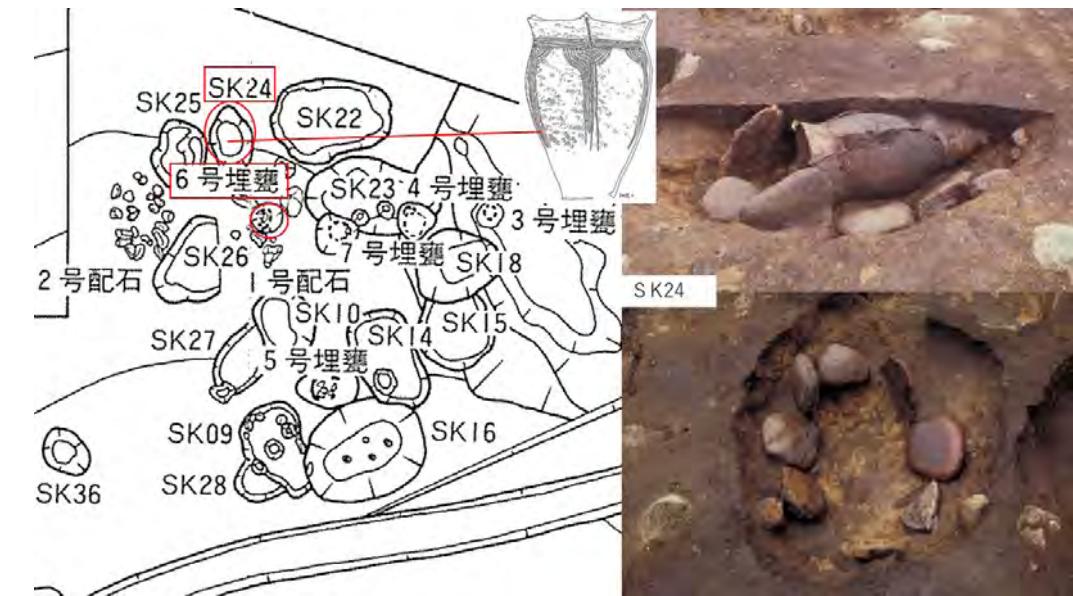
柴原A遺跡の列石遺構



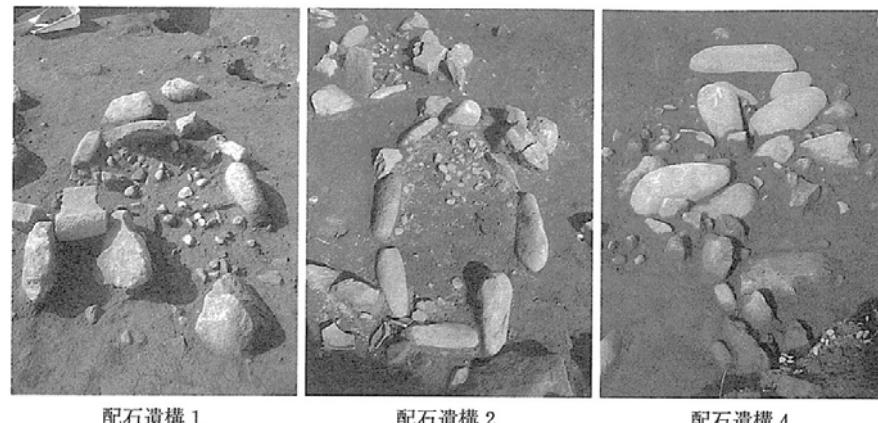
郡山市荒小路遺跡の場合



福島県教育委員会ほか「荒小路遺跡」
『母畠地区遺跡発掘調査報告19』より



猪苗代町長坂遺跡の場合（大湯式・堀之内2式期）

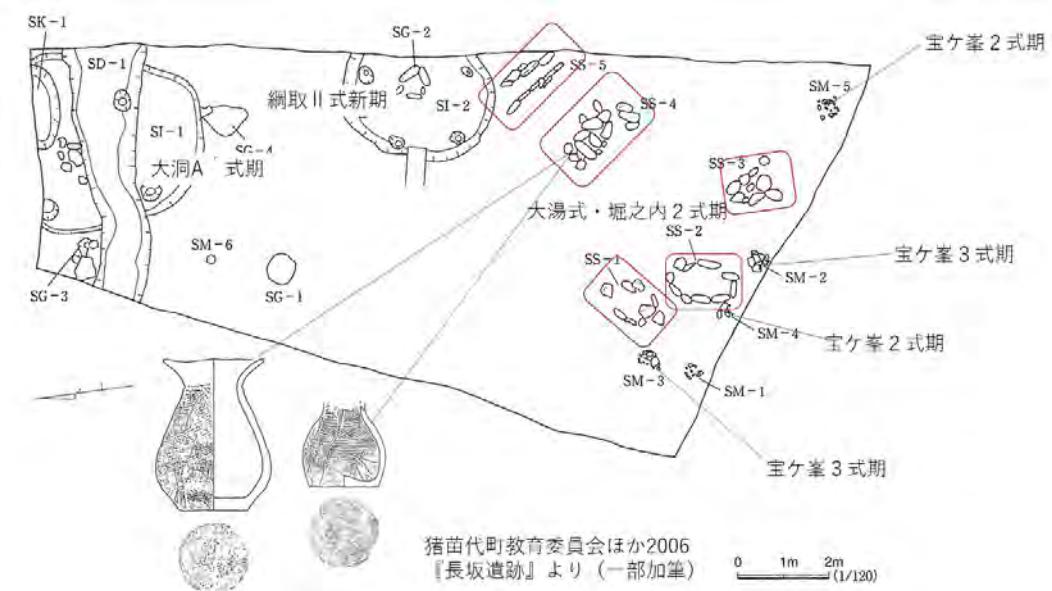


配石遺構 1

配石遺構 2

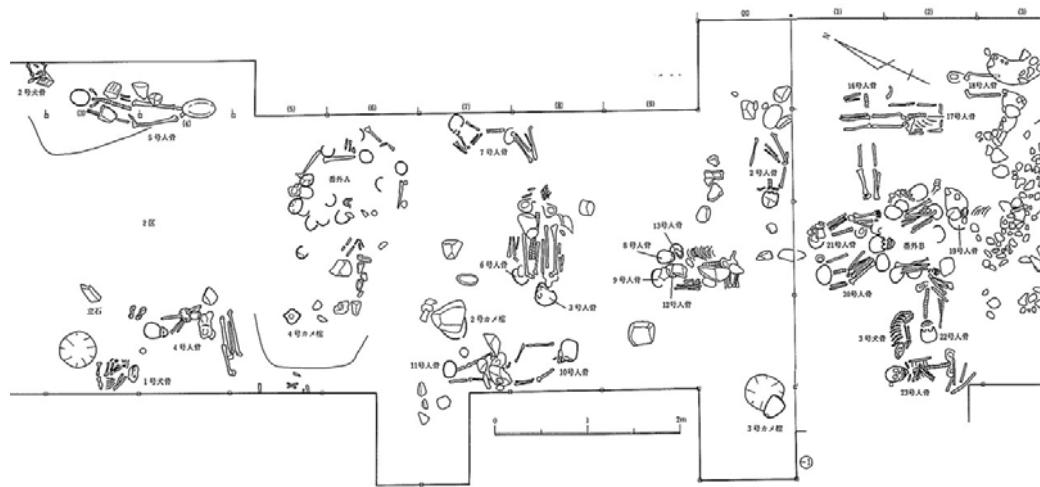
配石遺構 4

猪苗代町教育委員会ほか2006『長坂遺跡』より



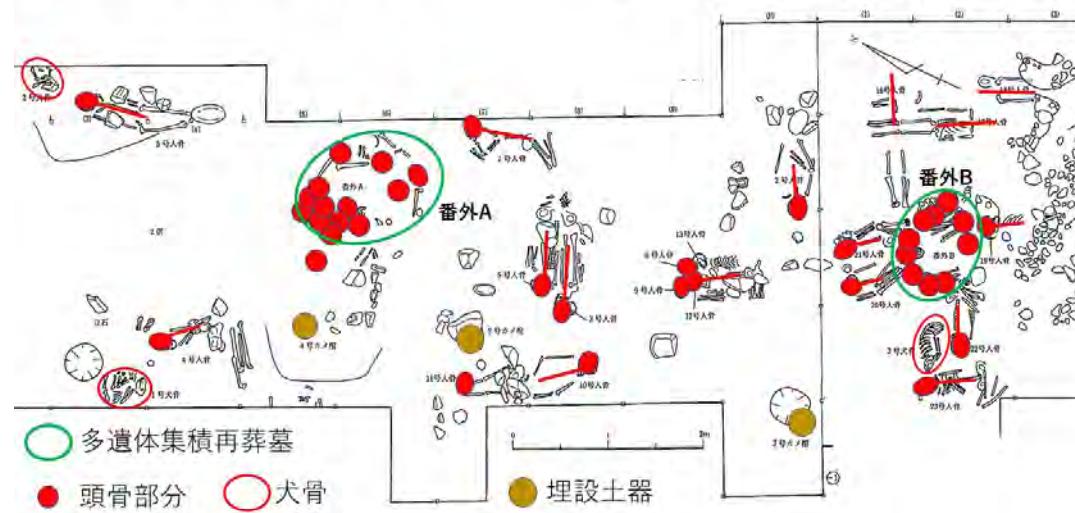
新地町三貫地貝塚の事例

福島県立博物館1988『三貫地貝塚』より

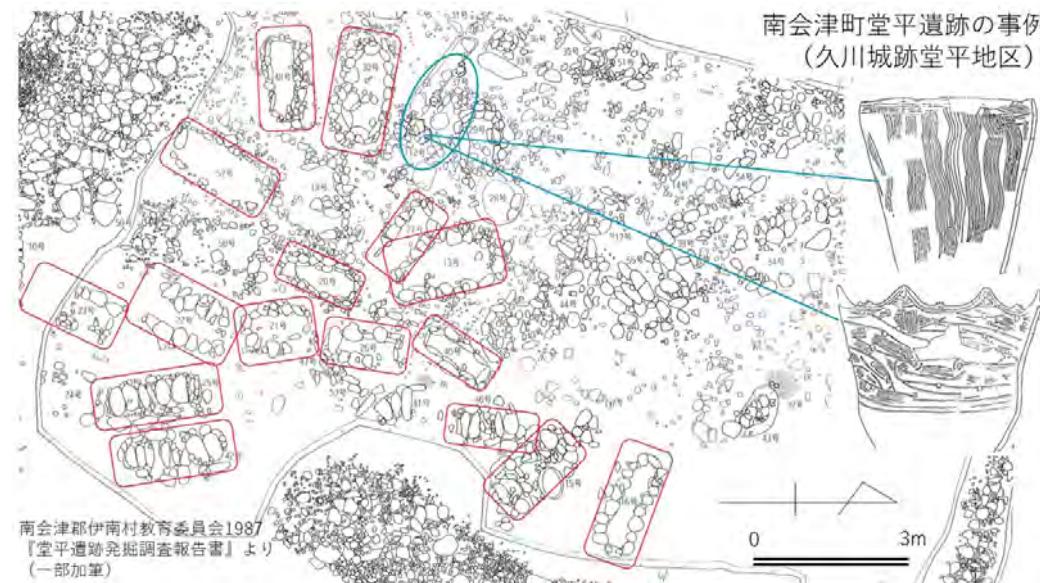


新地町三貫地貝塚の事例

福島県立博物館1988『三貫地貝塚』より（加筆）



南会津町堂平遺跡の事例 (久川城跡堂平地区)



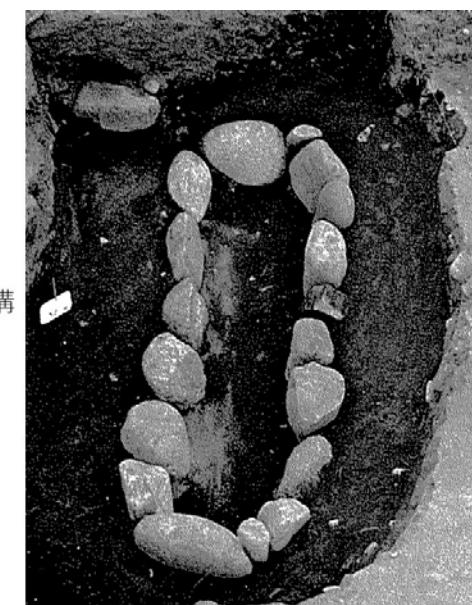
南会津郡伊南村教育委員会1987
『堂平遺跡発掘調査報告書』より
(一部加筆)

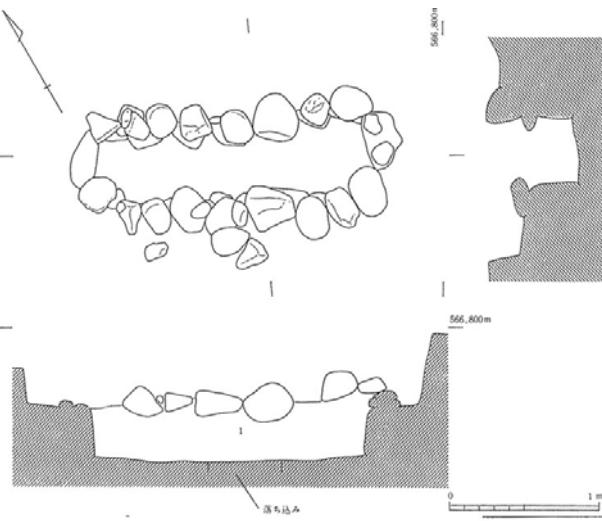


16号遺構



南会津郡伊南村教育委員会1987『堂平遺跡発掘調査報告書』より

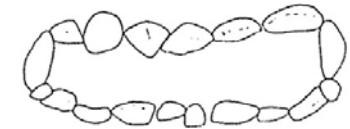




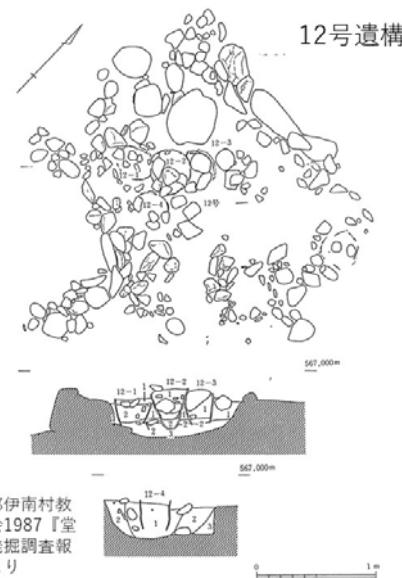
南会津郡伊南村教育委員会1987『堂平遺跡発掘調査報告書』より



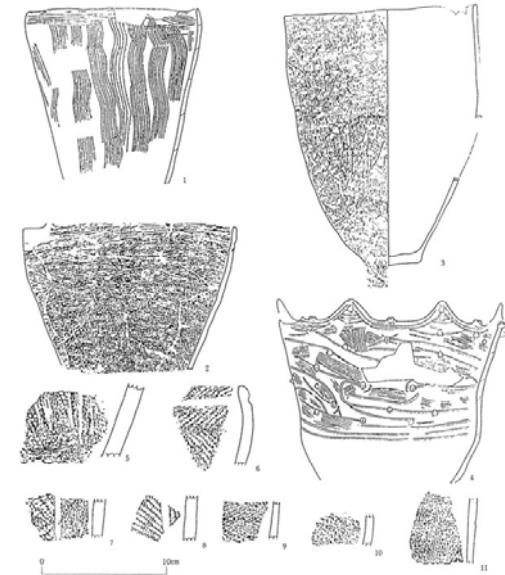
16号遺構 検出状況



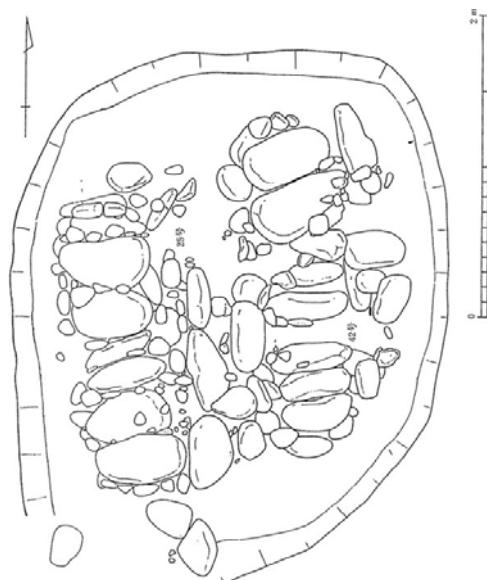
16号遺構 下層石材構築状況



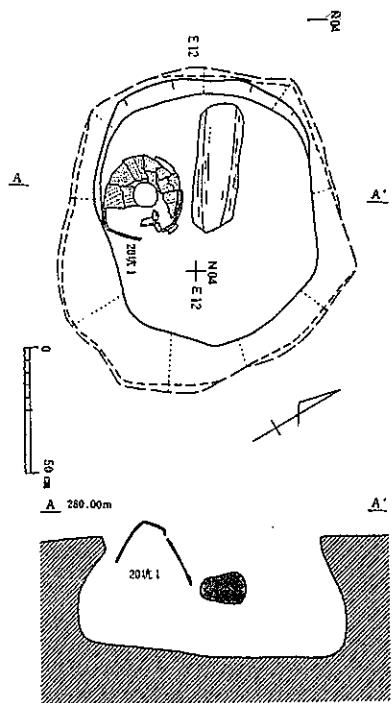
南会津郡伊南村教育委員会1987『堂平遺跡発掘調査報告書』より



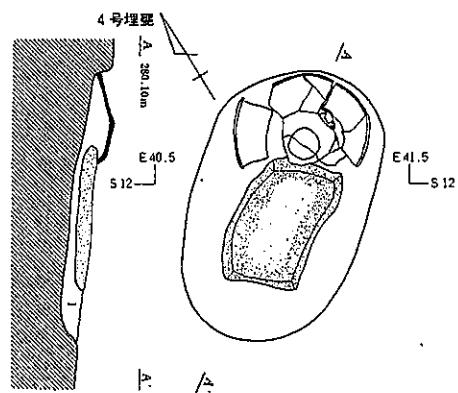
25号・42号遺構



南会津郡伊南村教育委員会1987『堂平遺跡発掘調査報告書』より

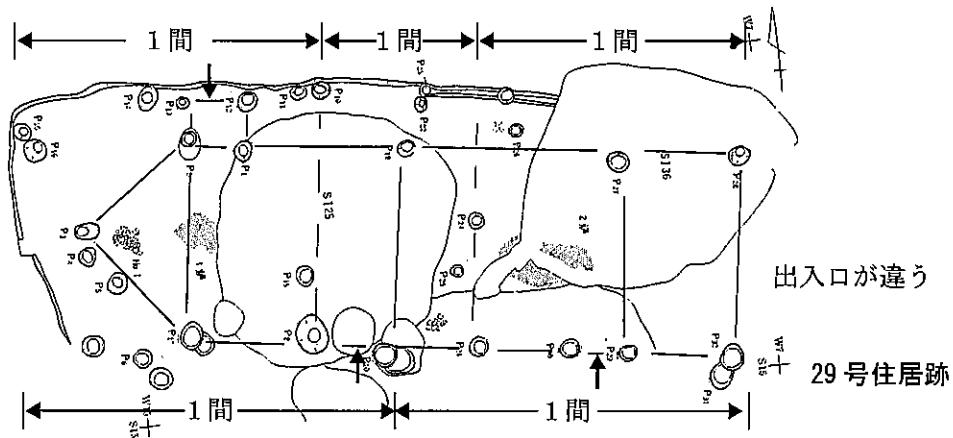


20号土坑

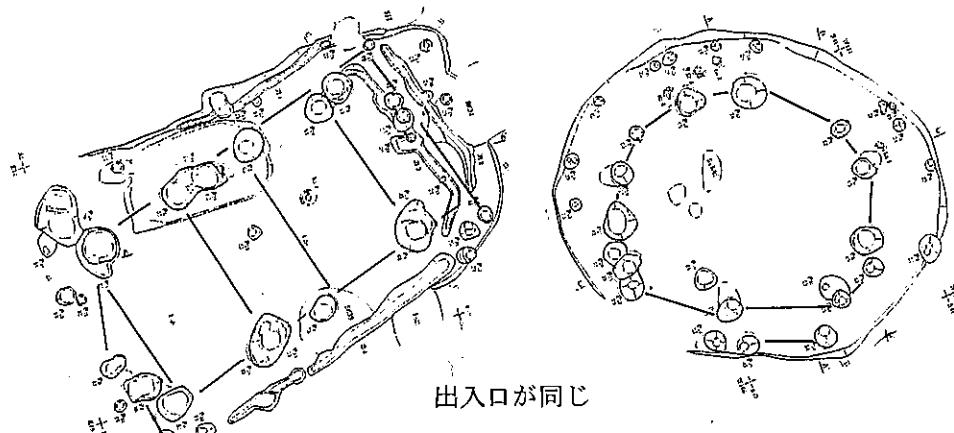


4号埋甕

七郎内C遺跡



29号住居跡



43号住居跡

9号住居跡

縮尺不同

法正尻遺跡